

第二回小学生作文コンクール「海外に紹介したい日本のこと」
〈優秀賞…高学年の部〉

東大寺

吹田市立津雲台小学校 五年 中田 朱音

日本で一番古い都、奈良県にある東大寺について紹介したいと思います。

まず、大仏さんは何のためにあるか、どれくらいの高さなのかを説明します。

大仏さんは昔、聖武天皇という人が作りました。昔は不平や不満の国だったので、大仏さんを作り人々のよりどころにすればそれらをすてて生きることが出きると思いい作ったのです。

次に大きさを説明します。私が大仏さんを見た時は、首が痛くなるほど見上げないといけないくらい大きくびっくりしました。

その大仏さんの高さが、小学六年生の身長平均の約十二倍もあります。顔の長さが約四倍、手は五才の子が一人入る大きさです。大仏さんを作る時にかかった材料は、銅は小型トラックの約五百台分、スズは約八台分、水銀は約三台分、木炭は約三十台分、金は六年生の約十二人分です。このように見ていくと大仏さんを作るにはいろいろな材料をたくさん使って作った事がわかります。

次は、柱くぐりについて説明します。私はしてみましたがとてもぐくせまく、ふつうの大人が入れないぐらいの大きさでした。その柱にあいてる穴は大仏さんの鼻の大きさです。柱の場所にも意味があります。柱は、北東の場所にあります。それは、北東はき門でありあまりよくない事を柱をくぐる事でなくしてしまおうと願ったからです。私が柱くぐりをならんでいた時、ある事に気付きました。それは、柱をくぐっているのは子どもや細い大人の人以上でした。調べてみると、昔の人は今みたいにごはんをたくさん食べられなかったので大人も柱くぐりをして、あまりよくない事をなくそうと願っていました。だから、柱の穴はあんなに小さいのです。

このように、聖武天皇が生きていた時代は、あまり豊かではありませんでした。貴族の間での争いがたえず、飢えや病気で死ぬ者が増え、洪水や地しんが続きと起こりました。さらには農作物の不作がつづき税金が重く、人々のくらしはまったくひどいものでした。

でも、今の日本は豊かな国になりました。外国の人たちは、今の豊かな日本と、豊かな国になるように願って建てられた大仏をぜひ見てほしいです。

◎審査委員長からのコメント…

「丁寧な調べと柱ぐりの体験を通して、当時の人たちの生活に思いを寄せつつ、現在の生活を考えている視点が優れています。」